

「見方・考え方」を働かせる授業づくりの工夫 ～小学校図画工作科～

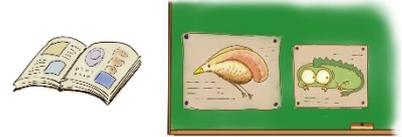
第4学年題材名 空想のいきものを絵に表す(第1/4時)

《本時の目標(育成を目指す資質・能力)》

想像したことや見たことから表したいことを見付け、いろいろな形や色を試しながらどのように表すかについて考える。(思考力、判断力、表現力等)

こんな授業になっていませんか？

今日は、空想のいきものを画用紙に描いていきますよ。まずは、想像を膨らませて、どんないきものにしようか考えてみましょう。



【教師の発問】

いきもの手や足をどうすればよいか分からないなあ。

どんな顔にすればよいか分かりません。



【児童の反応】

教科書で見たように、手は〇〇のような形にして、足は△△みたいな形にしてみたらどうかしら。顔は、黒板に貼った作品のように、目や耳を大きく描いたら、想像のいきものらしくなると思うわ。

児童が考えるべきことを、教師が一方的に教えてしまっただけでは、表したい思いを広げたり、想像を膨らませたりすることなく、単に言われた(見た)ように絵に表すだけの活動になってしまいます。

「見方・考え方」を働かせる意識をフラス！

「造形的な見方・考え方」とは

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、形や色などの造形的な視点で捉え、自分のイメージをもちながら意味や価値をつくりだすこと。

*〔共通事項〕(1) 第3学年及び第4学年

- ア 自分の感覚や行為を通して、形や色などの感じが分かること。
- イ 形や色などの感じを基に、自分のイメージをもつこと。

児童が「見方・考え方」を働かせるためには

自分の感性や想像力を十分に働かせる学習活動を展開することが重要です。

図画工作科は、児童が視覚や触覚などの様々な感覚を働かせながら、形や色などに能動的に関わっていく教科です。感性は、様々な対象や事象を心に感じ取る働きであるとともに、知性と一体化して創造性を育む重要なものです。同様に、想像力も全ての学年の学習活動において重要なものです。そのため、活動の主体である児童が、自分の感性や想像力を十分に働かせることができるような学習活動の設定や指導の工夫をします。

また、〔共通事項〕*で示している内容は、形や色などを活用したコミュニケーションの基盤になるものであるとともに、表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせている児童の具体的な姿です。そのため、自身の指導を〔共通事項〕の視点で見直し、指導内容や方法、指導上の配慮事項などを検討することが大切です。

授業を こう変える！

- ・参考資料の提示の仕方や発問を工夫することで、空想のいきものへの関心を高め、形や色などを基に児童それぞれが思いを広げ想像を膨らませていけるようにする。…**①**
- ・考えたことを基に話し合わせたり、「言葉」で考えを整理させたりすることで、児童が表したいことを見付け、表したい思いやイメージを明確にしていけるようにする。…**②**
- ・材料に触れ、手を動かしながら考える場面を設けることで、児童が形の感じを捉え、イメージを具体化していけるようにする。…**③**

このような授業にしていきましょう！

【参考資料等の提示の工夫】…1

さて、今から不思議な世界に住むいきものを見せませよ。でも、見せるのはその卵の絵です。

とって、カラフルな卵ですね。

では、この卵から、どんな形や色のいきものが生まれると思いますか。

卵のように、いろいろな色をしたいきものだと思います。

背の高いいきものじゃないかな。

どうしてそう思いましたか。

卵が長細い形をしているからそう思いました。

今のような発想を大切に、これから考えていきましょう。

〈児童の姿〉
空想のいきものについて、関心を寄せるとともに、教師とのやり取りの中で児童それぞれが、想像を膨らませています。

【イメージを言語化させ、表したいことを見付けさせるための工夫】…2

みなさんが考えるいきものは、どんなところに住んでいますか。また、どんな特徴がありますか。

宇宙に住んでいるいきものにします。それと宇宙を飛ぶためにきれいな模様の羽を付けようと思います。

宇宙とは面白いですね。思ったことや考えたことを近くの人と話しましょう。

それから、考えたことや話し合っ気付いたことについて、その言葉を書き留めておきましょう。考えが整理できるし、新しいアイデアにつなげることができますよ。

〈児童の姿〉
思ったことや考えたことを基に、言葉で伝えたり書いたりすることで、表したいことを明確にしています。

【児童が形を捉え、イメージを具体化できるようにするための場面設定】…3

見たり話したりする中で、イメージがわいてきたかな。もし、まだどんないきものにするか悩んでいたら、粘土を使って形を変化させながら、考えてみてよいですよ。

体の一部の形がまだ思いつかないから、試しに粘土でつくってみようかな。

いきもののポーズを、粘土を使って考えてみるぞ。

〈児童の姿〉
材料を扱う感覚や行為を通して、形を捉え、表したいイメージを具体化しています。

ほかの学習場面で「見方・考え方」を働かせている例

題材終盤での鑑賞の場面（第4時）で

互いの作品のよいところを、見たり話したりしてたくさん発見しましょう。

この作品は、羽の模様がとてもきれいだね。

その作品は、いろいろな形のパーツを組み合わせて描かれていて、面白いね。

〈児童の姿〉
造形的な視点をもって互いの作品を鑑賞し、形や色などの特徴に気づき、よさを味わっています。